

# 連携強化

## 特集 協働 自立する総社市

### 岡山県立大学と総社市との 連携協力に関する協定



2月20日、市役所で「岡山県立大学と総社市との連携協力に関する協定書」に署名・押印する三宮学長と片岡市長。中村議長も立会人として、署名・押印した



三宮信夫学長

「一丸となって地域に貢献したい」

# 岡山県立大学

「県大のもつ豊富な知識や情報に期待」

# 総社市



片岡聡一市長

ほしい。そして、産官学の協働ができるよう、より深いパートナーシップを目指したい」とは、片岡市長。それぞれに協定締結の喜びを話しました。

大学には、保健福祉学部、情報工学部、デザイン学部の3学部があります。平成5年の開学以降、グッズのデザインや実習生の受け入れ、審議会委員への登用などの交流は行っていました。しかし、担当課と大学の担当職員との話し合いのなかで行われていたものです。今後は包括的、組織的に連携し、保健をはじめ、福祉、産業、環境、教育、文化、まちづくりなど多くの分野で、連携と支援をこれまで以上に進めます。

具代的には、市長と学長が定期的に意見交換をすることや、双方に連絡調整の窓口を設置すること、PRグッズやポスターの作成、各種委員会や審議会へ教職員や学生の参画、市役所で大学関連の展示会を開催することなどです。

次いで、現在取り組んでいる協働事業を担当者の声を交えて紹介しています。今後は、包括協定の締結を機に、より一層こうした活動が増えると期待されています。

市と岡山県立大学は2月20日、岡山県立大学と総社市との連携協力に関する協定(包括協定)を市役所で締結しました。

調印式では、片岡市長と三宮信夫岡山県立大学学長、そして、立会人として中村議長が協定書に署名・押印。市と大学がさまざまな分野で組織的に連携し、相互に支援することが約束されました。

式で三宮学長は、「私たちの取り組みは地域を抜きにしては語れない。今まで以上に、大学一丸となって地域に貢献したい。そして、これまで取り組んできたことをさらに発展をさせ、弾みをつけていきたい。学生の学びにもプラスになる」と。「この日を待ちわびていた。県大のもつ豊富な知識や情報などの大いなる力を市に貸して

